

申し込み不要
どなたでも聴講可
参加費無料

岐阜大学・日本植物分類学会
一般市民向け 岐阜シンポジウム

植物誌の科学

身近な植物から世界の植物まで網羅する挑戦
～岐阜県植物誌から植物の世界を見る～

2020年 3月1日(日) 13:00～17:00
岐阜大学 講堂 (岐阜市柳戸1-1)

- 
- 13:00 主催者挨拶
森脇久隆 (岐阜大学長)
 - 13:10 シンポジウム趣旨説明
川窪伸光 (岐阜大学)
 - 13:20 「植物誌調査の新しい方法：九大新キャンパスでの
全種調査から屋久島へ、そして東南アジアへ」
矢原徹一 (九州大学)
 - 13:50 「なぜ身近な植物が絶滅するのか？：標本が語る
過去と今」
藤井伸二 (人間環境大学)
 - 14:30 「岐阜県植物誌完成までの道のりと岐阜県に
特徴的な植物」
高橋 弘 (岐阜大学名誉教授)
 - 15:00 「岐阜県植物誌はプロとアマが蓄積した植物標本に
よって完成した」
福岡義洋 (名古屋市立楠西小学校)
 - 15:30 「地方大学ならではの植物標本庫生残り戦略」
須山知香 (岐阜大学)
 - 16:00 総合討論 (オーガナイザー 川窪伸光・須山知香)

詳しくはURL ↓
もしくは、電話
058-293-3354
研究推進課まで

主 催： 岐阜大学 共催： 日本植物分類学会
協 力： 岐阜県植物誌調査会・岐阜県植物研究会・岐阜県博物館・美濃加茂市民ミュージアム
後 援： 岐阜県教育委員会・岐阜市教育委員会・岐阜県博物館協会



主催：岐阜大学 共催：日本植物分類学会
日本植物分類学会 第 19 回大会公開シンポジウム

植物誌の科学：身近な植物から世界の植物まで網羅する挑戦 ～岐阜県植物誌から植物の世界を見る～

開催日：2020 年 3 月 1 日（日）

会場：岐阜大学講堂（岐阜大学柳戸キャンパス内）

参加無料

協力：岐阜県植物誌調査会・岐阜県植物研究会・
岐阜県博物館・美濃加茂市民ミュージアム
後援：岐阜県教育委員会・岐阜市教育委員会・岐阜県博物館協会

【シンポジウムの趣旨】

このシンポジウムは、岐阜大学学術アーカイブ・サテライトである教育学部附属郷土博物館植物標本庫の本格的な運用開始、岐阜県植物誌調査会による『岐阜県植物誌』の出版、および岐阜県で日本植物分類学会の大会が開催される令和元年度に、総合的な「岐阜大学シンポジウム」として企画されました。

世界、アジアそして日本で活躍する植物誌研究のトップランナーである矢原徹一氏（九州大学）と藤井伸二氏（人間環境大学）を招聘するとともに、長年、岐阜県周辺の植物相の解析に尽力されている高橋弘氏（教育学部・名誉教授）および、地域の植物研究に活躍されている小学校教諭の福岡義洋氏、今回のアーカイブ・コアの設置を担った須山知香氏（教育学部・准教授）にご講演いただきます。

地域の自然史研究においては、地元のアマチュア研究者や学校の先生たち、そして博物館などが、とても大きな役割を果たしてきました。近年の社会事情により、研究人材が減少しつつあることが危惧されているこの分野では、次の世代の人材育成が急務となっています。本シンポジウムの内容は、全国の植物分類学者はもとより、岐阜県民、市民の興味をかき立てること間違いありません。学校の先生たちご自身が、実体験を伴う、自然に親しむ理科教育・環境教育の一つの形として、『自然の中へ出かけて、植物を観察する・学ぶ・調べる』活動を始められるきっかけとなることを祈念しています。

また、関連企画として、各都道府県が刊行している「植物誌」を収集し、図書館内に閲覧できるブースを設置するとともに、図書館エントランスホールにおいて植物標本の展示会や地域植物史の研究事例発表（2020/2/28（金）～3/12（木）の 13 日間）を行います。

【関連展示会】 観覧無料 会場：岐阜大学図書館 2F エントランスホール

会期：2020 年 3 月 1 日（日）～3 月 3 日（火）

1. 日本全国各地の植物誌を展示

会期：2020 年 2 月 28 日（金）～3 月 12 日（木）

2. 岐阜大学学術アーカイブズ「標本を読み解いて植物を知ろう」
3. 岐阜県博物館「植物線画の世界」
4. 美濃加茂市民ミュージアム「加茂地区の生物多様性調査から（仮）」
5. 岐阜大学環境サークル G-amet（ジャメット）「岐阜大学自然保存地の 50 年と学生主体の生物多様性事業の挑戦」